

ダム等管理フォローアップ

意見を受けての報告書修正対応表

【日吉ダム】

平成29年 3月

水資源機構
関西・吉野川支社

【日吉ダム】

1. 事業の概要

特になし

2. 洪水調節

特になし

3. 利水補給

特になし

4. 堆砂

特になし

5. 水質

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
5.3 水質状況の整理	<p>・濁質と冷水の放流による問題があり、色々な対策が講じられ最大限やっていると思う。但し、年によっては底層の溶存酸素があまり改善されていない。貯水池内に残された仮締切堤が影響しているのか、或いは曝気設備の取入口の位置や供給能力の限界があるのか、底層部分の酸素供給がうまくいっていないようにも見える。</p> <p>・生活排水対策が進んできているが、深層の溶存酸素が低いと栄養塩供給は、底層に近いところほどポテンシャルは上がり、今後、水温上昇で底層では栄養塩の堆積がそれなりに進むと思う。 環境省では、底層の溶存酸素は底部から1mの位置で評価するとされており、長期的な視点で、対策やモニタリング位置がこのままでよいか確認して欲しい。</p>	<p>・仮締切堤は水の動きに支障がないよう堤体の中央部分を切り欠いている。また、近年の出水による堆砂の影響から、曝気設備下部のクリアランスを確保するための対策工事を行っている。</p>	<p>・今後も水質調査等により、水質保全施設の効果を確認していく。</p>
5.5 水質の評価			
5.6 水質保全対策の評価			
本編 P5-74～ 94, 136, 142, 144 概要版 P47, 48, 59	<p>・マルチビームで堆砂測量を実施すれば、仮締切堤の上流が実際どういう地形になっているのか面的に出るので、曝気がどう効いているのか水質との関係を分析して欲しい。</p>	<p>・堆砂測量結果では、仮締切堤以外に特別な凹凸地形は無いことを確認している。</p>	
5.6 水質保全対策の評価	<p>・世木ダムから取水する新庄発電所活用による清水バイパスの効果と、ダム運用の効果を明確にするため、今後、新庄発電所の放流口より下流のデータを整理し、議論して欲しい。</p>	<p>・今後、新庄発電所放流口の下流で調査を行い整理する。</p>	<p>・今後、出水時に調査を行い、効果を確認していく。</p>
本編 P166 概要版 P70, 71			

6. 生物

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
6.2 ダム湖及びその周辺環境の把握	<p>・日吉ダムはオオサンショウウオの保全上、非常に有り難い存在である。ダムの上流で増えた雑種は日吉ダムで止まっている。今後、オオサンショウウオを見つことがあれば、DNA鑑定をおこない雑種か在来種か確認したい。</p>	<p>・オオサンショウウオを発見した場合は、連絡する。</p>	<p>—</p>
本編 P6-70, 76 概要版 —			
6.3 生物の生息・生育状況の変化の検証	<p>・ダム湖岸の植生は、大規模な出水による水位変動の攪乱の影響により、ヤナギタデの増加や、氾濫原でみられるサデクサが確認されている。とくにサデクサについては、最近、氾濫原の減少により植物そのものが減少しているが、ダム湖岸でこのような多様な植物相がみられたことは貴重である。特定外来植物のオオキンケイギクはダム湖の外には出現しているが、ダム湖岸には出ていないということで、外来種の問題はダム湖岸では無いことも評価できる。</p>	<p>・定期報告書において、ヤナギタデの増加やサデクサの確認状況、近年の調査においてダム湖周辺でオオキンケイギクが確認されていないことを整理している。</p>	<p>—</p>
本編 P113, 143, 160 概要版 P94, 104			

6. 生物

<p>6.3 生物の生息・生育状況の変化の検証</p> <p>本編 P6-117, 118 概要版 P95, 96</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カワウは年々増加傾向にはあるが、個体数が150羽位であれば水質に影響はないと思う。水鳥も増え良い環境であり、日吉ダムは珍しく生き物たちが非常に豊かなダムであることから、これを維持して欲しい。 ・カワウが増えると魚類への影響が相当出てくると思うので、今後注視して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も生息状況を把握する。なお、関係自治体や漁協等にてカワウ対策を検討している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携しつつ対応を図る。
<p>6.3 生物の生息・生育状況の変化の検証</p> <p>本編 P6-120 概要版 P98</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・二ホンジカの採食影響が激しくなると土壌侵食により水質に影響が及ぶことがあるが、影響は出ていないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・侵食による障害は確認されていない。 	<p>—</p>
<p>6.2 ダム湖及びその周辺環境の把握</p> <p>本編 P6-32 概要版 P86</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アジメドジョウは貴重な種なので、今後の動向に注意してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も生息状況を把握する。(H24年に流入河川でアジメドジョウが確認されている) 	<p>—</p>

7. 水源地域動態

特になし

8. その他

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
	<ul style="list-style-type: none"> ・他のダムに比べ非常に洪水貯留に活躍しているダムだと思う。この機能を存分に発揮できるように頑張ってもらいたい。 ・昨年、利根川水系では雪が少なく湯水になり苦労した。積雪・融雪をどう捉えてダムを運用していくか今後重要となる。特に秋から冬、春先にかけての水の出方は50年、100年経っていくと今のままとは限らないので、予測や運用の考え方をさらに高度化して欲しい。 ・日本海水温の上昇などの気象変化と日吉ダムの水文との関係について、難しい問題ではあるが是非研究して欲しい。 ・管理用発電量が計画を上回っているのは非常に良いことだが、計画当時と今で水文状況が変わっているということかもしれない。発電はある意味国家的な問題でもあることから、どう有効利用していくのかという観点で考えて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見を踏まえ検討していきたい。 	<p>—</p>